

志の実現に向けて 10

はじめに

7日(金)・8日(土)に昇陽祭が行われました。あいにくの雨模様でしたが、多くの来場者があり大いに賑わいました。

さて、このところ大雨が続いています。5年前には、西日本一帯が豪雨災害に見舞われ、ここ安佐北区も大きな被害が出ています。5年前は別の学校に勤務していましたが、当時の状況について次のように書き残していました。

県内で大きな被害が出た地域の一つに安佐北区口田地区があります。口田地区は本校から距離にして10km足らずのところには位置していますが、3年生の数人の生徒が現地でボランティア活動に取り組んでいることを知り、若手の先生と一緒に飲み物等の差し入れのために現地に向かいました。幹線道路はすでに復旧していましたが、住宅地に入ると様相が変わり、一面に土砂が広がっています。場所によっては、自転車のサドルがやっと見えるくらいまで堆積していました。水の力の凄まじさを見せつけられたような気がしました。

「夏季休業中の学習」について

26日(水)から夏季休業に入ります。(8月22日(火)まで)まとまった時間がありますので、これまで出来なかったことに意欲的に挑戦してもらいたいと思っています。ただし、この期間の学習も大切です。計画を立ててしっかり取り組むことが求められます。以下は、夏休みの学習の進め方の一例です。参考にしてください。

■ 学習目標を決める

まずは学習目標を決めましょう。「数学をやる」とか「英語をがんばる!」といったあいまいな目標ではなく、「英単語500個覚える」「数学の苦手な分野を克服する」「物理の問題集を2回繰り返す」といったように具体的な目標を立てます。

■ 週単位の学習計画を立てる

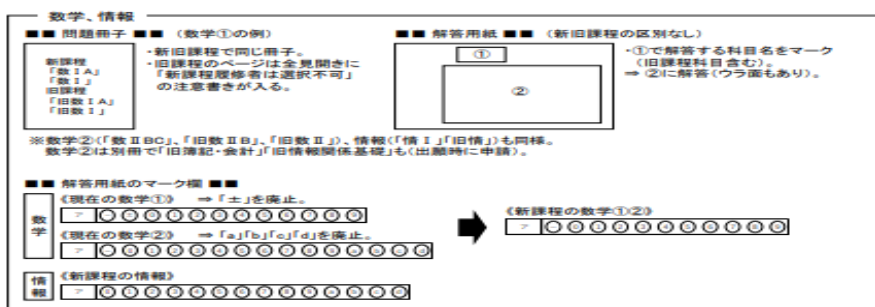
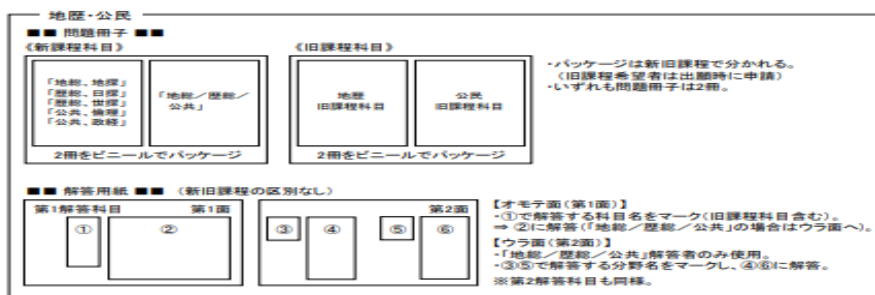
目標が決まったら、週単位の計画を立てましょう。夏休みは約1か月です。4週間に分割することで、夏休みの計画を立てやすくなります。なお、週単位は、大まかなものでかまいません。

■ 週単位で取組内容を明確にする

英語文法・語法を取り組む週であれば「問題集の〇ページ～〇ページを解く」というように、具体的な取組内容を明確にします。英単語のように毎日行う取組内容があれば、あわせて書き出しましょう。こうすることにより、1日の学習量が見えてきます。取組内容を明確にしたところで、1週間で達成できる分量かを見直してみてください。日曜日を予備日にして、達成できなかった内容を調整してください。

「2026年度大学入試における大学入学共通テスト」について

6月9日(金)に大学入試センターは、「2026年度大学入試における大学入学共通テストの出題教科・科目の出題方法等・問題作成方針・その他」を公表しました。その内容の多くは既に伝えられていることでしたが、新たに今回、「問題冊子」や「解答用紙」の形式が示されました。



なお、2026年度からオンライン出願が導入される予定です。大学入学共通テストの出願手続きはこれまで、高校を通じた郵送が中心でしたが、オンライン出願導入後は受験生自らがインターネット上で出願することになります。ただし、デジタル環境を有しない志願者に配慮し、従来の郵送による手続きを残すことも検討しています。オンライン出願導入により、受験科目の確認や修正などは、専用のマイページで随時対応できるようになり、受験票は印刷して試験会場に持参します。2024年6月ごろ高校などに周知する見込みです。

「2023年度入試を振り返る」について

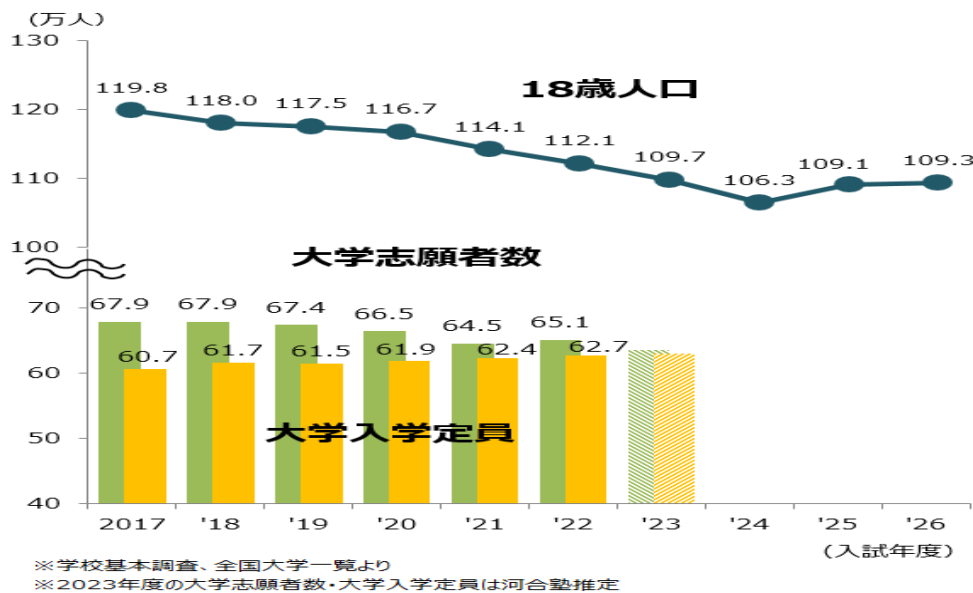
「河合塾Kei-net」に、「2023年度入試を振り返る」として2023年度入試の概況がまとめられていました。以下は、その概要をまとめたものです。なお、今回は、「2023年度入試の特徴」、「学校推薦型選、総合型選抜の概況」、「大学入学共通テストの概況」についてです。

■ 2023年度入試の特徴

◇ 18歳人口の減少

下の図は、18歳人口と大学志願者数・大学入学定員の推移を示したものです。折れ線グラフの18歳人口は、2017～2023年度までに約10万人減少しました。なお、2024年度入試の18歳人口はさらに約3万4千人ほど減少し、ここ数年で最大の減少幅になります。

〔18歳人口・大学志願者数の推移〕



◇ 既卒生割合は大きく低下

大学志願者に占める割合は年々減少しています。2020年度までは現役生約8割、既卒生約2割で推移してきましたが、2021年度以降、既卒生志願者が減少しました。それともない現役生の割合が上昇し、2023年度は85%になっています。大学入試が現役生中心のものになりつつあり、現役生が合格しやすい環境になっています。

〔大学入試センター試験・大学入学共通テストにおける既卒生割合の変化〕

年度	志願者数			占有率		
	全体	現役生	既卒生	全体	現役生	既卒生
2020	557,699	452,235	100,376	93	81%	18%
2021	535,245	449,795	81,007	89	84%	15%
2022	530,367	449,369	76,785	88	85%	14%
2023	512,581	436,873	71,642	85	85%	14%

■ 学校推薦型・総合選抜型の概況

国公立大学では、学校推薦型・総合型選抜の募集人員が増加こともない、志願者数・合格者数ともに前年比105%と増加しました。倍率は昨年と変わらず2.5倍となりました。私立大では、志願者数・合格者数ともに増加していますが、こちらは志願者数に比べ合格者の増加率が高いため、倍率は、1.9倍から1.8倍にわずかですがダウンしました。地区別にみると、首都圏、近畿圏をのぞき、各地区とも倍率はすでに1倍台前半となっています。

〔学校推薦型・総合型選抜の入試結果〕

・ 国公立大学

	志願者数		合格者数		倍率(志/合)	
	2023	前年比	2023	前年比	2023	前年比
国立大学	45,641	106%	17,817	105%	2.5	2.6
公立大学	25,104	104%	10,492	104%	2.4	2.4
国公立大学	70,745	105%	28,309	105%	2.5	2.5

・ 私立大学

	志願者数		合格者数		倍率(志/合)		
	2023	前年比	2023	前年比	2023	前年比	
地区別	北海道	6,990	102	6,132	101	1.1	1.1
	東北	9,883	99	8,302	102	1.2	1.2
	北関東・甲信越	11,254	97	9,564	100	1.2	1.2
	首都圏	127,302	102	85,245	103	1.5	1.5
	北陸・倒壊	41,100	103	28,638	101	1.4	1.4
	近畿	272,598	103	108,235	106	2.6	2.5
	中・四国	16,488	100	12,488	99	1.3	1.3
	九州	14,900	104	13,326	102	1.1	1.1
私立大学計	500,515	102	271,930	104	1.9	1.8	

■ 大学入学共通テストの概況

◇ 志願者数・受験者数

大学入学共通テストの志願者数は前年97%と減少しました。内訳をみると、既卒生が同93%、現役生と比較して減少幅が大きくなりました。受験者数をみると、前年比97%と同じく減少しています。この受験者数は大学入学センター試験最後の年である2020年度と比較すると、約1割減少しています。特に、3教科以下の受験者数は83%と減少幅が大きく、私立大学中心の受験生の大学入学共通テスト離れの傾向がみられました。

〔大学入学共通テスト志願者数・受験者数推移〕

・ 志願者数

	2020	…	2022	2023	前年比 (23/22)	2020年比 (23/20)
志願者数	557,699		530,367	512,581	97%	92%
現卒別	現役		449,369	436,873	97%	97%
	既卒		76,785	71,642	93%	71%
	高卒認定等		4,213	4,066	97%	80%

・ 受験者数

	2020	…	2022	2023	前年比 (23/22)	2020年比 (23/20)
受験者数 (受験率)	527,072 (95%)	～	488,384 (92%)	474,051 (92%)	97%	90%
科目数	7科目以上		280,024	276,075	99%	93%
	4-6科目		88,910	84,594	95%	88%
	3科目以下		119,450	113,382	95%	83%

◇ 総合点の推移

昨年大きく落ち込んだ数学の平均点が大幅にアップしたため、総合平均点は上昇しました。また、「生物」の平均点は当初40点を下回り、科目間で差が開いたため、理科②では得点調整が行われました。

〔総合点の推移〕

	2022	2023	差
7科目文系型	507点	530点	+23点
7科目理系型	510点	548点	+38点